

第 8 6 6 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 2 年 1 月 2 7 日 (月) 9 : 3 0 ~

場 所 益田市役所 第 2 会議室

益田市教育委員会

第866回 教育委員会定例会

招集年月日 令和2年1月27日（月）9時30分～

招集場所 益田市役所 第2会議室

議事日程

第1 会議録の承認

第2 教育長報告

第3 議題

議第1号 益田市教職員住宅管理規則の一部改正について

報第1号 益田市立真砂中学校の閉校・再編時期について

報第2号 日本遺産の認定申請について

第4 その他

(1) 協議

- ・「益田市学校施設整備計画」の策定について
- ・「今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画」について
- ・「令和2年度教育行政の取組方針（案）」について
- ・益田市奨学金貸付条例の一部改正について

(2) 情報提供

- ・歴史民俗資料館施設あり方に係る経過報告

(3) その他

- ・二学期制について
- ・令和元年度卒業式及び令和2年度入学式について

出席者

教育委員会

教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

柳 井 秀 雄
中 野 純
舟 橋 道 恵
村 上 三恵子
梅 津 富美子

事務局職員

教 育 部 長
ひとづくり推進監
教育総務課長
文化財課長
学校教育課長
学校教育課参事
社会教育課参事
人権・同和教育推進室長
美都分室長
教育総務課長補佐
教育総務課長補佐
教育総務課係長
教育総務課係長
文化財課主任
教育総務課主任

野村美夜子
大畑伸幸
山本裕士
木原光
田原啓文
森脇達也
岡崎賢一
石田公徹
松崎浩二
山本浩二
齋藤勝義
田淵竜司
高森雅子
中司健一
中田香織

柳井教育長 それでは、第866回益田市教育委員会定例会を開催いたします。
 今定例会より、新しく梅津富美子委員をお迎えしましたので、一言
 自己紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

梅津委員 梅津富美子と申します。教育に関しまして無知なところもありますが、勉強していきたいと思います。皆さんと一緒に頑張っていきたい
 と思います。よろしくお願いします。

柳井教育長 それでは、新しいメンバーで頑張っていきたいと思いますのでよろ
 しくをお願いします。
 それでは、早速議事に入りたいと思います。

第1 会議録の承認

柳井教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

柳井教育長 続きまして、教育長報告をさせていただきます。
 9日に、真砂中学校の再編に関する保護者との協議がありました。
 この件につきましては、後ほど担当課から話があります。
 続いて14日には、総合振興計画策定委員会があり、教育の代表と
 して舟橋委員さん、また、中野委員さんが公募委員として出席されて
 おります。内容は、第5次総合振興計画が令和2年度で終了し、これ
 から第6次総合振興計画を策定します。これからの施策などを検討し
 ていくというものですが、これに向けての市民からのアンケートにつ
 いて集計をしている状況にあります。
 それでは、この件についてはよろしいでしょうか。
教育委員 =全員了承=

第3 議題

○議第1号 益田市教職員住宅管理規則の一部改正について

柳井教育長 それでは、これから第3の議題に移らせていただきます。
 議第1号益田市教職員住宅管理規則の一部改正について、事務局よ
 りお願いします。

松崎分室長 益田市教職員住宅管理規則の一部を別紙のとおり改正したいので議
 決を求めるものでございます。
 同規則の第2条第3項において、住宅の名称及び位置を別表で規定
 をしており、その別表中の宇津川団地教職員住宅の項を削るものでご
 ざいます。

これまでの経緯等につきましては、宇津川教職員住宅の処分について、令和元年5月31日開催の定例教育委員会で方針決定をいただいたところでございます。また、9月の定例会において、土地測量業務の委託料として230万円の補正予算の議決を得ております。昨年の12月に土地測量の委託契約をいたしまして、測量成果により嘱託登記の可能な状態になったところでございます。

今後のスケジュールといたしましては、規則改正について本日議決をいただきますと、行政財産から普通財産に所管替えをし、その後、不動産鑑定を行いまして公募し、3月に売却する予定としております。

柳井教育長
教育委員

それでは、この件について承認いただける方は挙手をお願いします。
＝全員挙手＝

○報第1号 益田市立真砂中学校の閉校・再編時期について

柳井教育長

それでは続いて、報第1号益田市立真砂中学校の閉校・再編時期についてお願いします。

齋藤補佐

既に報道等でご承知されていると思いますが、真砂中学校の閉校、再編に関しまして具体的な時期が決定いたしましたので、その概要等につきまして報告いたします。

まず、これまでの経過についてでございます。前回の定例教育委員会でも真砂地区の学校再編の状況についてということで報告をさせていただいたところでございますが、11月18日に真砂地区の学校再編対策協議会より、真砂地区の保護者との話し合いを重ね、保護者の総意といたしまして真砂中学校の再編に向け進めていくことを決定し、その内容を記載いたしました真砂中学校の再編に関する方向性について書面にて市長に提出されたところでございます。

この内容に基づきまして、事前に対策協議会において保護者の再編に向けた疑問点や要望等の集約を行っていただき、その内容に回答する形式での保護者と市教育委員会との話し合いの場を持ち、不安解消に向けた取組を進めてきたところでございます。

これを受け、その後、対策協議会が保護者、児童生徒との話し合いを進められ、その結果といたしまして1月9日に真砂公民館におきまして、真砂地区の保護者や教育長を初めとする市教育委員会の関係者が出席をして開催した話し合いの場におきまして、対策協議会の会長より次年度の新中学3年生が卒業する令和2年度末に真砂中学校を閉校・再編するということが報告されたところでございます。

次に、確認書の締結についてですが、1月9日に受けた対策協議会会長からの報告をもとに書面にて整理することを考えておりまして、

1月14日に対策協議会の三谷会長、城市事務局長にお越しいたゞき、令和2年度末の閉校・再編時期を記載いたしました確認書に柳井教育長と三谷会長の連名で署名をいただいたところでございます。これにより、真砂中学校の閉校・再編が決まったことから、今後は再編に向けた条件整備等の詳細を引き続き協議していくこととしております。

また、今後についてですが、現在真砂中学校の在籍生徒ということで、2年生が3名、1年生が3名の6名が在籍しており、次年度においては真砂小学校から入学予定の2名を含めると8名で次年度を迎える予定となっております。しかし、閉校・再編時期の決定を受けまして、次年度に真砂中学校に在籍する予定の児童生徒の保護者と対策協議会が話し合いを行った結果、中学校1年生以下の児童生徒については、令和2年度から益田東中学校へ編入、入学する旨の報告を受けたところでございます。

これに対して市教育委員会といたしましては、真砂中学校最終年度は、全てそろった8名で最後の卒業生を送り出すことが望ましいという見解を示したところですが、対策協議会より、これまでの保護者との話し合いの経過や、また保護者の決断ということを尊重したいという回答をいただいたところでございます。これにより、次年度は新3年生3名で迎え、年度末の閉校に向けて進めていくということになります。今後も話し合いを進めながら、児童生徒が勉強に励める環境づくりを真摯に進めていこうと思っております。

村上委員

これまで地域の方々と再編に向けての不安解消に丁寧な取組をしてこられた結果、具体的な時期が明らかになり、また地域の方々とのさらなる協議が進められているということを感じております。これから再編に向けての条件整備等の話し合いが進んでこようかと思っておりますが、現時点で例えばハード的なものであるとか、そういったものの条件については地域から出されているのでしょうか。

齋藤補佐

12月17日に保護者と2回目の話し合いの場を設けました。この中で、通学手段の確保について話がありました。また、制服等の経費的なものについてもありました。

中でも、交流学习については事前に行ってほしいという要望を受けたところですが、これにつきましては、来年度、中学校に上がる真砂小学校の6年生になりますが、先週、1回目の交流学习を行ったところでございます。また、今後も2回予定をしており、3月までに3回を予定しています。

また、現状でいうと残る側になります真砂中学校2年生に関しても、いろいろな不安があるということを保護者から受けました。そういったところで、益田東中学校の校長と真砂中学校の校長に立ち会って

ただきまして、2年生の保護者を集めて対策協議会と一緒に話し合いの場を設けて、不安解消の取組を行っているという状況でございます。

柳井教育長
齋藤補佐
村上委員

校舎などについては話が出ていないということですか。

はい。

ありがとうございました。ソフト面についても生徒に不安がないように配慮していただきながら交流学习等も行っておられる様子なので安心いたしました。今後も丁寧な取組を続けていただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

梅津委員

思春期に学ぶ環境が変わるといのは大変なことだと思うのですが、受け入れ側の対策といのはどうでしょうか。また、今まで再編されたところの、いじめやいろいろな問題があったと聞いておりますので、そういった状況を招くようなことはないか、そういったところが少し気になります。

柳井教育長

それでは、受け入れ側の体制といるところも含めまして、経験上から森脇参事、よろしくをお願いします。

森脇参事

私は、平成29年度に西南中学校閉校ということで、30年度に子どもたちと一緒に中西中学校に勤めたことがありました。その時の学校の体制について少しお話しさせていただきます。

益田東中学校では、益田東中学校に真砂中学校が統合したという形ではなくて、新しい益田東中学校をつくろうというような形で進められていると思います。実際、中西中学校に勤めましたときに、従来の中西中学校の校区が広がって、西南中学校の子どもたちが来るということで、新しい学校づくりが今日から始まったということを職員に話しました。一般には外から見た形ですと、人数の構成によって、ある学校がある学校に吸収されるというふうには受け止められますが、現場としては学校と学校がくっついて新しい学校ができ上がると受け止めております。そして、その場所は、私が経験した場合ですと中西中学校、それから新しく令和3年度からは、その場所が益田東中学校であるというような形で教育現場では対応していくのではないかと考えております。

それから、子どもたちについては、こういった表現がいいのかわかりませんが、本当に環境にはすぐ慣れます。例えば東陽中学校も鎌手中学校と学校再編がありました。1学期の終わりには、どの生徒が東陽中学校か鎌手中学校かもわからないぐらいの状況になったと校長先生も話されておりました。実際、子どもたちの環境適応能力は非常に大きいのではないかと思えます。しかし、梅津委員さんがおっしゃられましたように、思春期の人間関係をどう築いていくかということが、子どもたちにとって、やはり不安な部分ではあると思えますので、

教育相談の充実等は新しい学校でしっかり行っていただくということが重要ではないかと思えます。

私も学生時代に学校が統合した経験をしており、その経験からも、新しい友達、新しい価値観に出会うことは、良い経験であったと思っております。

梅津委員
舟橋委員

ありがとうございます。安心いたしました。

良い方向へ進んでおり、お互いの話がきちんとできているということが素晴らしいと感じております。

今、お聞きしたところは、子ども、保護者、学校という三者のところではありますが、これから先は、地域が大きく関わってくるというところで、地域の皆さんの様子や考え、状況報告などはどのようなになっているのかお聞きしたいと思えます。

齋藤補佐

地域に対してということですが、実は対策協議会の方から地域に対して、その都度報告をしているということをお聞きしています。今回の確認書に関しましても、締結した後に対策協議会から連合自治会長さんとの連名で地域に回覧や、また自治会長さんから口頭で報告をしているということをお聞きしております。

大畑推進監

対策協議会の事務局長から地域自治組織に対して、これからは地域自治組織が中心になって子どもたちを育てていくという話をしております。

どうやって地域で中学生の活動をつくっていくのか、高校生になっても活動できる場をつくるのかということをお進めているという報告を受けております。ただ理解だけではなく、子どもたちの活動の場づくりもしっかり汗をかく方向で頑張っておられますので、しっかり支援していきたいと思っております。

舟橋委員

ありがとうございます。

地域づくりの部分は、しっかりと一步一步大切に進めておられるというふうに思いました。

もう一つお聞きしたいのは施設の関係です。どういう形で知らされているのか、説明では対策協議会から地域に報告を行っているということですが、地域の方の意見、考えというのを直接聞くという作業はどのようなになっているのでしょうか。

齋藤補佐

まず、再編の関係については、対策協議会が表に立っております。その都度、地域の方々とお話をしながらということですので、直接子どもが地域の方にご説明するというのではなく、対策協議会から話をされています。今までの再編に向けては保護者の方を集めて保護者の方との話を進めてきたというところがあります。対策協議会としても地域に伝えながら、保護者がまず先だということの中で進めてき

ているところです。

もう一つ、ハード的などころですが、真砂小学校、中学校につきましては耐震性がないという施設でございます。前回のところでご報告させていただきました耐震性のない施設につきましては、今年度、整備計画を策定する予定としております。この計画策定をもって地域の方にも説明をしていかなければと思っているところです。

舟橋委員
柳井教育長
教育委員

よろしくをお願いします。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

=全員了承=

○報第2号 日本遺産の認定申請について

柳井教育長

それでは続きまして、報第2号日本遺産の認定申請について、事務局よりお願いします。

中司主任

新しい委員さんもいらっしゃいますので、少し詳しく説明させていただきます。日本遺産というのは、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。2020年度、オリンピック・パラリンピックの年までに外国人観光客に日本を楽しんでいただくということで全国の100のストーリーを認定すると見込まれており、2019年度まで83件が認定されています。島根県内では既に津和野町、雲南市と安来市と奥出雲町の合同、それから出雲市、浜田市含む広い地域、それから石見部で石見神楽の5件が既に認定されているところではありますが、地域的な偏りは考慮しないということでもあります。

日本遺産について、第5次益田市総合振興計画の後期計画、それから総合戦略において認定を目指すとしておりましたので、令和元年度から認定申請を行っておりましたが、残念ながら落選しました。しかし、引き続き認定申請を行い続けているという状況であります。

昨年度、「中世日本の傑作 益田を味わうー地方の時代に輝き再びー」というタイトルで認定申請を行いました。残念ながら選ばれませんでした。しかし、その後のヒアリング等で基本的な骨格としてはストーリーが良かったが、もう少し具体的などころをしっかりと書いてほしいということや、もう少しイメージがしやすいようにしてほしいといった指摘がありましたので、基本的なストーリー、中世の時代の交易や政治や文化の優れたものがまとまって残っているというところ自体は非常に高い評価を受けておりましたので、その骨格は変えずに中身をブラッシュアップする形で仕上げてきたところでもあります。

ストーリーは高く評価されていましたが、一方で課題を抱えていると言われておりましたのが地域活性化計画の方でありまして、この地域活性化計画につきましても主に観光交流課、それから政策企画課、都市整備課、農林水産課、社会教育課の庁内各部局とそれから民間の各施設等、各団体等とも協力を進めてきまして、中世の益田の優れた文化遺産を、ストーリーに沿ってまわれるよう、地域活性化計画を策定してきました。

日本遺産認定によるブランド化を通じて、観光振興はもとより、地域コミュニティの維持や石見空港・JR・バス等の地域交通の維持など様々な波及効果が生まれることが期待されているとありますが、それは効果が生まれるよう地域活性化を図っていききたいということで地域活性化計画を別に立てております。

舟橋委員 日本文化遺産の認定ということですが、その言葉自体がまだ市民に届いていないという気がします、その辺りはどのようにされているのでしょうか。

中司主任 近日中に報道発表をする予定であります。また、日本遺産になった後には、そのことについての普及啓発としてシンポジウムであるとか、市の広報での普及啓発ですとか、実際日本遺産のコースを回るバスツアー等を市民向けに予定しております。

舟橋委員 もう少し士気を盛り上げるというか、たとえ日本遺産にならなくてもそういうことを目指そうというようなところがもう少し市民に伝わっていくといいと思いました。主にこれから行うということですね。

中司主任 はい。

舟橋委員 わかりました。なるべく早目に、こういったことを始めているということ伝える。またどうなるかわからないけれども、そういった方向に向かっているということ伝えることがすごく大事だと思います。

柳井教育長 今言われましたように、市民の気持ちをどれだけ盛り上げていくかということがこれから大事だということですので、よろしく願います。

中野委員 5月のチャレンジからの再チャレンジということで、いろいろご説明をいただきましてありがとうございます。私的には非常に期待が持てるような、そういった内容だと思っています。去年は石見神楽をテーマにして近隣の市町村と合同で認可されたわけですが、こうして石見神楽の注目が全国的に見ても高まっており、それをもとに交流人口も増えているということにつながっているだろうと思っています。

私がこの認定申請の部分で心配しているのが、仮に認定されたときの、その後の動きということを心配してしまっていて、認定されるということになると全国的に見ても着目をされる地域になると思いますので、

ハード面というのを同時並行で進めていかななくてはならないのではないかと考えています。認定されてもハード面が整っていないと、来られた方にはやはり障壁といいますか、悪い意味で言いますとそういうふうに捉えられるケースもあると思います。動線はしっかりしておかないといけないこともありますし、認定をされることによって来ていただける方に対してしっかりしたケアであったりPRというものもしていく必要があると思いますので、各行政の関係部署との話し合いも進めておられるという話も聞きましたので、そういった辺りについて、どのように考えておられるのかお聞きしたいと思います。

中司主任

ありがとうございます。

文化庁からもご指摘いただいております、日本遺産になったけれども受け入れ態勢が全然整っていないということを非常に危惧されており、地域活性化計画でもその点を非常に重視しておりました。そういうことでもありまして、1年目は、とにかく受け入れ環境の整備、実際に回っているときに道路標示がきちんとできているのか、外国人が1人で来ても大丈夫であるかということにまずは取り組んでほしい。その後に、大々的に情報発信をするという順番で行ってほしいと言っておりました。実際に、今の日本遺産のホームページを見てみると、そういう体制が整ったところから情報発信ができるような形になっているようです。実施体制がどう整っているかというところを重視されておりますので、できるだけ多くの団体に関わっていただいて、5月を待たずにこのことに取り組んでいけるようにと考えております。

中野委員

ありがとうございました。そういった準備も着々と進んでいるということで非常に私自身も安心しておりますが、何とか認定が得られるように頑張りましょう。よろしくお祈いします。

柳井教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

=全員了承=

柳井教育長

それでは、次回は2月27日の9時30分から定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

=終了時間 11時53分=